

「成功は、準備をした者にだけ訪れる」

春。別れと出逢いの季節です。新しい地で新しい生活をスタートさせた方もいらつしやることでしょう。

私も、誰一人知る人の居ない館山に、導かれるように来て早や6年が経ちました。館山のあちこちに転がっている「もったいない」の最たるものは人。才能溢れる人、熱く純粋な人がたくさん。こうした人達との素晴らしい出逢いの連鎖によって、館山の未来が拓けてくる、そんな手応えも感じ始めています。

未知なる議員活動を開始したのも昨年春。試行錯誤しながら年四回の議会を経験しました。議場に立つて執行部と中身の濃い議論をするためには、相当な事前準備が必要です。回を重ねるごとに学べることも多く、市民の将来の幸せに繋がる方策を考え提案し、執行部とどうすれば意思疎通ができるのか、日々プレゼン力を鍛えています。

「成功は準備をした者にだけ訪れる」この言葉をかみしめて毎議会、精力を注いでいます。



◆これまでの議会での一般質問のその後

★地域公共交通 (昨年9月)

2月に西岬地区でバス勉強会を市に開催してもらいました。150名近い住民の皆さんも参加され、今後、使いたくなるような地域の足をどう整えていくか、関係者間で話し合いを続けていけるよう働きかけを続けます。

★消防団員確保 (昨年9月)

女性消防団員を募集するきっかけとして、自ら消防団に名乗りを上げ、4月1日付で辞令を頂きました。9月中に女性消防団員を組織化できるよう、市の女性職員とのミーティングを行ってまいります。

3月議会報告

3月議会は、合計43議案の審議・採決を行いました。平成28年度一般会計当初予算案に関しては、190億円もの市の年間予算の内容を全て理解するのは並大抵ではなく、分厚い予算書と格闘しました。まだまだ勉強不足と反省していますが、執行部と具体的な事業について議論できる貴重な場ですので、理解を深めて参ります。

また、2つの議案について「討論」を行いました。食のまちづくりの施設整備と、議員報酬についての考え方を示し、全文をブログに掲載しています。

移住定住につながる子育て支援策

全国的に「人口減少をどう食い止めるか」が最大の課題となる中、出生率を向上させると同時に子育て世帯の移住を促進する独自の子育て支援策を打ち出し、効果をあげている自治体もあります。館山市でも、都会の子育て世帯を魅了するような個性的な子育て支援策・教育を推進するよう主張しました。

個別の学校では、地域との連携や大学の協力による海洋教育等も行われていますが、これをもっと意識的に市全体としても取り組みを強化して欲しいです。「都会にないものを提供する」という視点から、過疎地域のマイナスをプラスにし、少人数ならではの人間関係や地域ぐるみでの子育て支援、自然に触れ生きる力を育む教育等を全面に押し出し、特色ある教育を進めれば、館山市にとっての大きな強みとなります。

さらに、移住定住窓口で、こうした子育て・教育環境を積極的にPRしていけるように、関係部署との連携を密にしていきたいことを要望しました。

「むろあつみのカフェ・タイム」

館山市について、日頃思っていることを語り合ひましょう

日時: 4月16日(土) 13:00~14:00

場所: みんなの台所 オラーガ

館山市伊戸7-1 (元・千明丸)

会費: 100円 (お菓子など差入れ歓迎)

*13時までは、ランチ(500円)も食べられますが、混みあうことが予想されますので予約をお勧めします。(無くなり次第終了)

*お持ち帰り弁当(500円)もできます。

予約先: 0470-29-1192

(館山市の子育て環境について分かったこと)

- ・財政に占める子育て支援・学校教育予算比率は、10年前の約2倍(約20%)に上昇。
- ・合計特殊出生率(平成26年1.53)は千葉県内でトップ。
- ・年度初めの保育所待機児童はゼロ(職員努力により)。年度途中入園は課題あり。

ふるさと納税による地域振興

ふるさと納税について、昨年12月議会に続き再度質問しました。全力を傾けて活用する価値のある制度だと思っからです。まさに政府が用意した地方創生策で、意欲のある自治体が得をする(知恵を出せない自治体は置いていかれる)制度ではないでしょうか。

市長答弁で「より一層関係団体と連携し、公募も視野に入れ、検討している」「特定の施策に限定し、目標額を決めて寄附を募る。ガバメント・クラウド・ファンディングを新たに導入します」と、半歩進んだ表現もありました。墨田区北斎美術館のように一事業で4億円近い寄附を集める例もあります。



ふるさと納税は、他の施策と違って財源を探す必要がないどころか歳入を増やしなが、観光振興や市内事業者の育成にも繋がられます(特に良い物を持つているが宣伝する資金力のない事業者に光を当てられる)。返礼品として、館山に來ないと使えない体験型ツアー等も人気です。躊躇せず大胆に取り組んで欲しいと力説しました。

◆提案

① 適切な目標値を設定する

28年度予算でふるさと納税の具体的な目標額が設定されていません。第四次「館山市総合計画」の中では、寄附件数の5年後目標値が1000件となつていますが、27年は758件(約3700万円)に達していますので、意欲的な目標値とはほど遠いものです。魅力いっぱい館山ですから全市の英知を結集して、最低でも1億円、全国トップクラスの寄附を集めることを目標に据えるくらいの意気込みで取り組んで欲しい。

(27年トップは宮崎県都城市の35億円) 意欲的な目標値がなければPDCAサイクルも「絵に描いた餅」になりかねません。

② 返礼品や寄附先事業に公募を取り入れ、審査会等を設置すること。

市内の誰もが参加できるように「公募」が最適です。また返礼品や寄附先事業の選定にあたっては透明性・公平性が必要であり、客観的な選定基準を定め納得性のある人選での審査会のような仕組みも必要です。

③ 全庁的に総力をあげて取り組むこと。

全国でトップクラスの成績を挙げている自治体では、全庁横断組織で取り組んでいるところもあります。色々な角度からの柔軟な発想が必要ですし、館山の魅力をより深く掘り下げたり、プロモーション方法を試行錯誤して商品化するという作業を通して、職員にとっても大きな力がつくからです。

傍聴者の声

毎回、たくさんの方に傍聴席まで足を運んでいただきありがとうございます。励みにもなりますし、議会の緊張感を高めるのにも大いに役立っています。今議会の傍聴後に頂いたご意見の一部をご紹介します。

「市議会定例会 質問、答弁を拝聴させていただきました。

二のふるさと納税での質疑で、目標値が設定されていないことにビックリ。返礼品にしても魅力のある品が無い、館山の魅力ある商品づくりを市のコンセプトの基に作り上げていく位の気構えがほしいですね!

室さんがおっしゃる通り、プロジェクトを立ち上げ、国の補助金を利用し、すぐにでも行動に移してほしいですね。市の職員だけではなく一般市民からも参加をしてもらい、最終的には市民が誇れて、納得する「ふるさと納税」ができるとういですね!

そして、一・三の子育て、学校教育で、小学校~中学から、地元館山の良さ、農業、漁業の歴史、日本で(世界で)館山にしかないもの、等々を学び、高校で地場産業、観光資源等を生かしたビジネスがどうすれば出来るのか等々を授業で考え、シミュレーションをし、提案できるまでをすることによって、若者の地元意識の向上、地元離れを防ぐ要因になるかと思ひます。

とにかく、市長をはじめ館山市のコンセプト(こんな館山にしたいな!)を作り、それを市民全員が共有できるようになると良いのですが。最後に市長の答弁で具体的なお話が無かったことが残念でした。でも室議員の質疑が拝聴でき心強く思ひました。これからも是非応援させていただきます。お疲れさまでした。」



「議会質問、お疲れ様でした。いろいろな活動に参加しながら、質問事項をよく調べていますね。

館山市の出生率が高いとは知りませんでした。子育て環境が良いのでしょうかね。嬉しい事です。

ふるさと納税の仕組みがよく理解できました。館山に納税したい人を増やす工夫は、ひいては市の活性化にも繋がりますよね。それにしても、目標も立てず、立てても現状より5年後が少ないとは、一体どう言う事でしょうね。

若い職員達のグループが立ち上がったのも嬉しい事です。大切に育てたいものです。また機会がありましたら、他の議員の質問も傍聴したいです。」